

河川伝統技術名称： **かわくらの川倉**  
分類：水制 年代：17世紀代  
河川名：黒部川  
都道府県／地先：富山県／黒部市



昭和 17 年洪水時に自衛のため集落前に設置された川倉



昭和 34 年洪水時の必死の水防活動（川倉と竹蛇籠）



現在も水防演習等で組み立てられる川倉

資料：「激流に挑む 黒部川直轄改修 60 年のあゆみ」、H10.3、建設省黒部川工事事務所資料

（概要）この工法は、一般に急流河川に用いられ、黒部川では藩政時代から使用されていた。堤脚に逆出しに据えて崩壊面を直接保護する場合と、本出しに使う水当たりを緩和させる場合とがある。逆出しは頭部を堤防側に置き、棟木を水流と直角よりやや上向きに水中に入れ、ただちに蛇籠か石俵を重しとして載せる。上記の枠類を施す箇所は激流の場合が多いので、押し流されて目的の位置に沈設することが困難であるから、組立後要所要所を鉄線などで結んで作業の終わるまで繫留する必要がある。

また、黒部川では昔、竹蛇籠が水防の際によく使用された。竹の弾力性で、中に石を詰める作業が容易になるため、かつては川のそばに能登から取り寄せた竹が植えられていた。